

前報において、児童の毛髪中シスチン含量が、ビタミンAおよび動物性蛋白質の摂取量を反映すること、暗調応テストは各種ビタミンの過不足を判定するのに役立つことを報告した。本研究はこの方法を実際的に応用し、学校給食前後の栄養状態や、実施上の栄養学的な問題点を明らかにし、なお、へき地帯学童の潜在性栄養疾患を早期に発見し、食生活改善の方向を見出すことを目的とした。

2. センター方式によって学校給食を行っている、岩手県胆沢郡金ヶ崎地区から都市・農村・山村形態の代表校3校をえらび3か月毎に上記の方法を適用し、その効果を判定しながら問題点を摘出した。その他サーリー法による血色素検査、フリッカーの疲労測定器による検査も併用した。へき地帯学童については、4組以上の学校をえらび、同じ方法によって潜在性栄養疾患をみつけ、栄養剤やビタミン負荷試験を行って、その効果を観察した。

3. 学校給食の効果は3か月頃から暗調応テストに反映し、1年後には偏食者や家庭食の悪い人以外は、正常値に近くなったシスチン含量は6か月頃から上昇したが、1年では正常値までは達しなかった。へき地校の場合は、学校給食の効果が顕著に現われた。

A-47 児童の栄養判定に関する研究（第2報）

岩手大教育 鷹齋 テル
○及川 桂子

1. 児童の栄養判定法に関する研究のうち、多数の児童について、採血によらず容易にしかも比較的正確な方法は、あまり研究されてないように思われる。筆者らは